

生物多様性の主流化推進に向けたシンポジウム

お寄せいただいた質問への回答

NO	ご質問の内容	回答
①	生物多様性というのは、diversity of (biocreature)を和訳したものだと思う。私は、堺の南部地域で観察会を開いている者ですが、ここ数年観察会の参加者が低年齢化（幼児や小学校低学年）している。多様化という言葉を知りたがっている。子供たちにどのように伝えているの教えていただきたい。又工夫されていることがあったら参考にさせていただきます。	「大阪市生物多様性戦略」には、「生き物たちの豊かな個性とつながり」という言葉で、解説されています。「個性」や「つながり」の意味は、小学3・4年生にも理解できるので、授業でも伝えていきます。「みんなちがってみんないい」という言葉も使っていますが、さらに低学年の児童にも理解できる言葉です。また「ティラノサウルスなど強い大きな恐竜は6600年前に絶滅したけれども、そのときにも生き残った生き物がいたから、私たちが存在する」と伝えると、小さなもの、弱いものの存在も重要だということが理解できるので、授業で伝えるようにしています。この言葉を受けて、担任教諭が「(道徳的な意味においての)人々の多様性、個性の尊重」にもつなげて、授業のまとめの言葉にされることもありました。 (大阪市エコボランティア 榎元慶子)
②	大阪城におけるイベント企画によって自然環境に悪影響をあたえているのではないのでしょうか。	大阪城公園は、都市公園でありながら歴史公園の色も強く、また大阪全体を盛り上げていく拠点でもある為、イベントも欠かせません。もちろん自然にも配慮する形で取り組んでまいります。 (大阪城パークマネジメント共同事業体 菅野浩一)
③	バイオームの取組でたくさんの生物調査が入っていたようですが、ほんとうに大阪市内にいたものが入っていたのでしょうか。	もちろんすべて取り組み期間内に大阪市のユーザーから投稿されたデータです。大阪市内からの投稿では、外来種・希少種を含めた多くの種の投稿がございました。投稿は専門知識を持つ人間によるクレンジングの上、整理しております。飼育・栽培の可能性が排除しきれない投稿も含まれていますが、そうした個体に関しても野生流出のリスクも踏まえ、有用な情報ととらえております。アプリを通じて収集されたデータの活用については、今後、市の担当者・専門家によるさらなる検討を期待しています。 (株)バイオーム代表取締役 藤木庄五郎 生き物の同定は、複数の同定ポイントをとらえた写真を組み合わせる必要があります。投稿写真1点で判別する現在のバイオームはそのしくみが装備されていないため、判別結果として出た種名は不正確で、イベントとしてまとめられた全体の種数や希少種、外来種の種数も疑問です。今後そのしくみができたとしても、投稿者がどこを撮影すべきかがわかっていなければ、同定には使用できません。今回は投稿写真1点のみなので、科名、属名まででとどめるべきものが、多数あるように感じました。「普及啓発だからゲームだから不正確でもよい」というのは、市民に対して誠実ではありません。行政など公的機関であれば、精査した情報を基本にした普及啓発であるべきでしょう。 (大阪市エコボランティア 榎元慶子)
④	OECMへの登録基準はどのようなものなのでしょうか。	OECMとなる「自然共生サイト」は、IUCNのガイドライン等を踏まえ、「境界・名称に関する基準」(境界が明確で名称が付されている)、「ガバナンス・管理に関する基準」(統治責任者と権利責任者が特定されている)、「生物多様性の価値に関する基準」(生物多様性保全上の価値がある)、「管理による保全効果に関する基準」(生物多様性の価値に対する脅威等がなく、モニタリングがなされている)の4つの基準で認定され、登録されます。これらは大項目であり、詳細は環境省HPの「OECM検討会」(通称)の最新の資料を参照してください。 (大阪府立大学名誉教授 石井実)
⑤	生物多様性の主流化といわれていますが、行政性の中で主流化はどの程度行われているのでしょうか。環境局の中だけでなく都市整備局教育委員会など他の部局での主流化は、行われているのでしょうか。	地球温暖化対策の全庁的な推進体制である「大阪市地球温暖化対策推進本部」に、「生物多様性保全推進ワーキンググループ」を設置しており、生物多様性保全の取組について、関係所属との情報交換を行っています。 今後、生物多様性の主流化に向けて、川上から川下まで連携した取組を一気通貫で進められるよう関係部署とも連携し、生物多様性戦略の各基本戦略に掲げる具体的施策を推進してまいります。 (大阪市環境局環境施策部環境施策課長 三原真)
⑥	まず一つは、万博開催地としての夢洲に対して、新しい市長に提言出来ないか？	現在、大阪自然環境保全協会としては、2023年統一地方選挙候補者へ生物多様性についてのアンケートを送っています。また、新市長に対しての提言は行いたいと思っています。 (大阪自然環境保全協会 磯上慶子)

7	<p>数々の有意義な取組の一方で、身近な樹木（街路樹・公園樹）が多く撤去されています。守られる木もあるようですが、市民の反発も大きく、メディアも取り上げています。身近な樹木を守るために、例えば環境局、建設局、都市整備局などと連携し、知恵を出し合うには、どうすればよいでしょうか。</p>	<p>いただきました樹木伐採に関するご意見につきましては、関係部局と共有させていただきます。</p> <p>（大阪市環境局環境施策部環境施策課長 三原眞）</p>
8	<p>大阪城公園のパークマネジメントとして、大和リース、大和ハウスの活動は積極的で良い試みと思いました。生きものいっぱいプロジェクトの活動もこれからはいえ、ネットワークを意識した活動は、今後の他の活動にとって良い試みと思っています。</p> <p>大阪市に2点、お聞きします。</p> <p>①歴史公園の位置付けではありますが、大阪城公園について例えば、OECMの登録をしたら、さらに注目度が高まると思われました。OECMの登録は考えられておられるのでしょうか？</p> <p>②ネットワークの活動を支援するのに大阪城公園だけより他の活動も含めて支援や多様な意見があると活動が広がると考えています。この場（会場の参加の方）には、多様な方々がせっかくおられるので、生物多様性ネットワークのプラットフォームの構築を皆さんに呼びかけられては、いかがでしょうか？ぜひともお願いします！！</p>	<p>①自然共生サイト認定の運用が、令和5年4月以降開始されることから、今後決定される基準や必要な手続きについて確認を進めるとともに、公園管理者をはじめ関係部局とも共有してまいります。</p> <p>②2018年度から取り組んでいる「生物多様性の保全に向けたネットワーク会議」での取組を充実させてまいります。</p> <p>（大阪市環境局環境施策部環境施策課長 三原眞）</p>
9	<p>大阪城公園生きものいっぱいプロジェクトの主旨はわったけれど、2018年度以降約1,200本の樹木伐採されたというニュースを何年か前に聞いたが、真実は？理由は？何本？その後どうなった？そこを説明しないと理解できない。プロジェクトが、市民参加でちゃんと配慮しているというゴマカサレタ感じになる。</p>	<p>現在PMOが行う開発(建設)は終わっており、枯損木、危険木以外を伐採する事は有りません。（大阪城パークマネジメント共同事業体 菅野浩一）</p> <p>公園管理者側からの情報提供を受け、その内容についてコミュニケーションを図りながら、現実的な配慮を求めて行きたい。</p> <p>（大阪城公園生きものいっぱいプロジェクト 垣井清澄）</p>
10	<p>生物多様性の主流化に学校教育が果たす役割は非常に大きなものがあると思います。小学校現場では多くの小学校が生き物さがしという素晴らしいとりくみが行われておりますが、これについて行政の部局間の連携は非常に大事だと思うのですが、大阪市教育委員会ほどの程度関与されているのでしょうか。</p>	<p>小学校における生き物調査は、子どもたちの生物多様性に関する意識を高め、環境や生き物の多様性を守る行動へとつなげていくために、重要な取組みとして、「大阪市生物多様性戦略」における具体的施策の1つ目に位置付けています。平成30年度から令和4年度までの5年間で、市立小学校の半数近くの136校において生き物調査を実施してきたことであり、先生方からも、概ね良い評価をいただいております、今後も生き物調査を継続実施することにより、教育委員会との連携を進めてまいります。</p> <p>（大阪市環境局環境施策部環境施策課長 三原眞）</p> <p>この事業は施策として「大阪市生物多様性戦略」に位置付けられていること、そして戦略は環境局単独でなく、各局が連携して取り組む施策として取り上げられている、これが基本になっています。ただし本事業は環境局が予算を確保し、具体的には小学校に働きかけて実施校を決め、日程や授業への配慮等は、担当者間で調整しているところです。</p> <p>調査や授業は「学習指導要領に示されていない」オリジナリティのある方法で行い、環境科学研究センターを中心に講師らが、現場で出現した生き物を題材に解説し、その方法について、担当教諭のみならずにもご理解いただいているところです。</p> <p>（大阪市エコボランティア 榎元慶子）</p>

<p>大阪城公園生物多様性とりにくみについて</p> <p>①パークセンター：冬の12月1月2月は最もカモ類が多く休む。石垣の清掃伐採を10月か4月にずらせないか？（時期）</p>	<p>2月ですが、検討していきます。</p> <p>（大阪城パークマネジメント共同事業体 菅野浩一）</p>
<p>②環境局：大阪城隣接NTT高層ビル建設バードストライクの心配について。大阪城は渡り鳥が立ち寄るので有名である。現在北側にはヒルトンホテル、南側にはパーティナホテル大阪が建設中。特に（NTT）パーティナホテルは高さ120mの全面ガラス張りである。世界中でガラス面ビルのガラスへの景景の写りこみ、夜間の強いライトの影響で、渡り鳥が数百羽単位で一度に死んでいる。大阪城から難波宮跡公園が、「特別街区」として、NTTなどの企業による開発地域とされているようだ。大阪は、大阪城を高層ビルで囲ってしまうのではなく、大阪城を生きものの往来しやすいエリアとして保護していくことも必要では？規制が必要ではないか？</p>	<p>高層建築の規制について、既存の法令により対応するものと考えています。いただきましたご意見については、関係部局とも共有してまいります。</p> <p>（大阪市環境局環境施策部環境施策課長 三原眞）</p>
<p>③環境局：公園商業化による影響。大阪城は元々は、植樹して緑を増やしたが、鳥による実生の木も多い。自然再生されている。指定管理者による2,000本近くの伐採して商業化は、生物に影響をあたえるのではないか？重要な公園の大規模伐採は規制するべきではないか？</p>	<p>大阪市生物多様性戦略の基本戦略Bでは、みどりや水辺などの自然空間を保全・創出していくこととしており、生物多様性の観点からも事業の目的や現場の状況をふまえて適切な管理・保全される必要があると考えます。いただいたご意見については、関係部局とも共有してまいります。</p> <p>（大阪市環境局環境施策部環境施策課長 三原眞）</p>
<p>④環境局：夢洲や大阪湾岸での干潟、湿地、ヨシ原の再生について。生物多様性の冊子を作ったり会議を開催は素晴らしいが、夢洲に飛来するシギチドリのほとんどが絶滅危惧種である事を認識されているか？今どれくらい、夢洲がなくなることどれくらいなくなるか考えているか？ 博覧会協会は2022年冬の観察調査を保全協会に許可しなかった。どのような状況が把握できないのでは？2023年1月のガンカモ調査許可されず、2030年までにシギチドリの数を増やす対策をどうやるのか？教えてほしい。</p>	<p>大阪市内の生物相（生物種の分類、数など）について、生物多様性のモニタリング・評価を行うこととしており、自然とふれあう機会や場の創出、環境学習の充実に向けた取組みを進めてまいります。夢洲や野鳥園臨港緑地など生物多様性ホットスポットを保全する取組としては、環境NGO/NPO・市民・民間事業者などと連携し、清掃や草刈りなどの環境保全活動や外来種の防除などが必要と考えています。いただきましたご意見については、関係部局とも共有してまいります。</p> <p>（大阪市環境局環境施策部環境施策課長 三原眞）</p>